

山岳友の会会報

2018年5月 第29号



撮影：荻野 秀夫

も く じ

第35回乗鞍現地研修会	報告 小林 久雄	2
第35回乗鞍現地研修会講演「持続可能な社会に向けて」	中村 秋男	2
憧憬の森講演会ならびに2018年度通常総会	報告 小林 久雄	3
2018年度通常総会資料		5

第35回乗鞍現地研修報告

2月24日 少し春の兆しの乗鞍に17名が参加して第35回現地研修会が開かれました。今回は、中村秋男さんの「持続可能な社会に向けて」の講演をいただきました。講演内容については、中村さんよりご寄稿いただいておりますので、次をご覧ください。

また、6月に予定の礼文・利尻の現地研修会の詳細な説明を笹木さんよりいただきました。

さて、引き続きの交流会で.....まあまあよく飲むこと.....乗鞍の夜は愉しく過ごせました。ご協力ありがとうございます。

小林 久雄



持続可能な社会に向けて — 第35回乗鞍現地研修会講演 —

2017年12月17日放送のNHK特集「激変する世界ビジネス“脱炭素革命”の衝撃」を見て環境と経済は密接に関連していると確信した。それと同時に日本人の「感覚」も世界と違いがあると実感した。昨年ドイツのボンで開催されたCOP23の会場で日本はNPO 団体からレットカードを受けた。直前に発表された政府開発援助の石炭火力発電所建設をめぐる問題である。日本の主張は従来の石炭火力発電所に比較して16%の省エネできる施設で、日本としては得意の技術で世界に貢献していると考えていた。一方世界の見方としては、一度建設されれば今後30年間も二酸化炭素を排出し続ける施設を建設すること自体が問題だという事なのだ。パリ協定で世界の196の国と地域が二酸化炭素削減の目標に向かって進んでいる中で、なぜ日本だけが20世紀の技術のこだわるのか全く理解できないと言っている。



今、世界のマネーの流れは大きく変化している。その中心にあるのはESG投資だ。ESG投資は、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)に配慮している企業を重視・選別して行う投資。環境では二酸化炭素の排出量削減や化学物質の管理、社会では人権問題への対応や地域社会での貢献活動、企業統治ではコンプ

ライアンスのあり方、社外取締役の独立性、情報開示などを重視する。その規模は2,500兆円で、世界の投資額の1/4に達している。



ウォルマートは世界最大規模の企業だが太陽光パネルの設置や蓄電器の導入、照明のLED化、冷暖房設備の更新など実施して65万トンの二酸化炭素を削減し、1,000億円以上を節約している。最新の太陽光発電コストは2.6円/kWhにまで下がり石炭火力発電所の1/5となっている。もはや環境の為に自然エネルギーを選択するのではなく、コストを下げるために導入する時代となりつつある。

現在、世界のエネルギー消費の78.4%は化石燃料であり、自然エネルギーは19.3%、原子力は2.3%である。この自然エネルギーの発電容量は世界合計で921ギガワット(GW)に達している。2016年度の自然エネルギー発電設備容量は中国が258GW、アメリカが145GW、ドイツが98GW、日本が51GWとなっており、中国は日本の5倍以上となっている。

日本でも二酸化炭素削減に関しては2030年に2013年度比26%、2050年に80%削減を目標としている。この目標達成に向けて様々な対策を実施していく必要がある。住宅ではZEH(ゼッチ)(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)を推進していく。2020年までに標準的な新築住宅で、2030年までに新築住宅の平均でZEH(ゼッチ)を目指している。ZEHは

①高気密・高断熱住宅②省エネ住宅③創エネ住宅(エネルギーをつくる)である。

自動車についてみると、2016年の世界の自動車生産量は、中国が2,800万台、アメリカが約1,200万台、日本が920万台となっている。自動車は今後、EVにシフトしていくと考えられる。電気自動車のエネルギー効率にはガソリン自動車に比較して3倍以上となる。今はガソリン車より価格が割高になっているが、今後バッテリーの性能アップや軽量化などが進めば経済的に成り立つ価格で販売されると思う。

私たちの生活とエネルギー問題は大きなかわりがありますが、大事なことは「経済性」だと思います。照明のLED化は省エネ・高性能・長寿命で主流となっています。冷蔵庫やテレビも年々性能が向上しています。私たちが特に気を使わなくても「低炭素化」は実現しつつあります。今世界がどのように変化しているのか情報収集しながら私たちの「ライフスタイル」を考えてみる事も必要ではないかと思えます。

中村 秋男

憧憬の森講演会ならびに2018年度通常総会 報告

憧憬の森講演会では、明科県水産試験場の降幡充部長による講演「信州ブランド魚の開発」が行われました。講演では、ニジマス養殖の歴史・信州ブランド魚が生まれた背景・信州サーモンの開発・信州大王イワナの開発・信州ブランド魚の今後 についてのお話しでした。概要は以下の通りです。

明治 10 年 カルフォルニア産の卵 1 万粒寄贈がスタート。日本に生息のサケ科は 4 属(イトウ属・イワナ属・サルモ属・サケ属)ニジマスの養殖は 5000t その他マス類が 3000t。

円の相場制移行で輸出が影響し養殖が変化した。明科の谷崎所長の功績により、配合資料開発や等調液洗卵法や産卵期調節でニジマス養殖がすすめられた。



海外よりサケ・マスの輸入が増え、塩焼きサイズの行き詰まりなどあったので、信州サーモン「シナノユキマス」が誕生。(S62) ニジマス 4 倍体×ブラウントラウトで、姿が美しく病気に強く成長もいい魚。

ホテル関係者より新たな要望で「信州大王イワナの開発」された。イワナの 2 倍体雌と性転換の偽雄による受精後の 3 倍体化処理による「信州大王イワナ」が誕生、3 年養殖で出荷。

課題として、冷凍品質の向上や旬(季節感)の美味しさ、全国的に 62 種の養殖(海の二期養殖)、養殖池や水温、魚粉の餌の高騰、配合資料の工夫、価格などが、挙がりました。

美味しい信州のブランド魚に期待して興味深い講演でした。

講演会に先だち総会では、2017 年度の事業報告と収支決算報告及び監査報告、2018 年度の事業計画及び予算案年間計画が承認されました。また、会員の澤田さんと立花さんが『御嶽山火山マイスター』の初代マイスターに認定され、一言ずつお言葉をいただきました。今年度も『事故の無い 安全登山 を誓い』頑張りましょう。

小林 久雄



次に総会資料を添付します。

なお、監査により、収支決算について適正に処理が行われていることが確認されました。

2017年度友の会事業報告

設立7年目の2017年度も様々な事業をほぼ計画通りに開催することができました。

以下、主な事業について報告します。

○総会

通常総会、4月2日(日)、松本市駅前会館、33名参加（委任状71通）

○運営委員会

第12回運営委員会、3月17日(土)、神谷圭子会員宅、17名参加

○憧憬の森講演会

第10回憧憬の森講演、4月2日(日)、松本駅前会館、33名参加

「我が山書」講師：百瀬 武会員

第11回憧憬の森講演会、12月2日(土)、松本駅前会館、29名参加

「中部山岳の高山帯における景観の形成メカニズム」、講師：佐々木明彦会員

○現地研修会

第31回現地研修会、4月22日「花桃の里と満蒙開拓平和記念館を訪ねる」、8名参加

第32回現地研修会、8月28日-30日「東北の霊峰・出羽三山を巡る旅」、18名参加

第33回現地研修会、9月8日-9日「焼岳中尾峠を巡り上高地・焼岳を学ぶ」

講師：奥原仁作会員、奥原 幸会員、24名参加

第34回現地研修会、10月14日-15日「伊勢神宮参拝と御在所岳そして榊原温泉」、22名参加

第35回現地研修会、2月24日-25日「持続可能な社会に向けて」

講師：中村秋男会員、17名参加

○会員集会、12月2日(土)、松本駅前会館、29名参加

○上高地・乗鞍キッズキャンプ、8月3日-4日、キッズ28名、会員スタッフ11名参加

○第25回上高地談話会（第8回潤沢談話会）、7月5日-6日、潤沢ヒュッテ、7名参加

○会報の発行、4回発行（4月19日、8月10日、11月2日、1月9日）

○信州大学・読売新聞社共催の連続講座「岳問のすすめ」に会員随時参加

○上高地ステーションの整備を実施、随時

2018年度信州大学山岳友の会事業計画（案）

基本方針

友の会は設立8年目を迎えますが、次の基本事項に基づき事業を計画します。

1. 信州大学の山岳研究（山の環境研究センター）を支援します。
2. 会員相互の親睦と、心を豊かにする講座・研修会並びに講演会を開催します。
3. 自然の中で子どもたちの豊かな感性を育てる取り組みを進めます。
4. 大学と市民を結ぶ取り組みを考えます。
5. 会員を増やし、会の活動を充実します。
6. 会報は、会員の協力をいただき4回発行します。

事業計画

期 日	内容等	対象者	備考（場所等）
4月1日(日)	通常総会&憧憬の森講演会「信州ブランド魚」 降幡 充（長野県水産試験場）	会員	松本市駅前会館
5月12日(土)	第36回現地研修会 「茅ヶ岳登山とワイン」	会員	日帰りバス・勝沼
5月26日(土)	岳間のすすめ-28「山岳カメラマン」 米山 悟（NHK）	会員他	信州大学理学部
6月6日(水)～ 6月10日(日)	第37回現地研修会 「欲張り!! 礼文・利尻トレッキング」	会員	ガイド・笹木会員
6月23日(土)	岳間のすすめ-29「山小屋の営み」 山口 孝 会長・小林 剛 支配人（涸沢ヒュッテ）	会員他	信州大学理学部
7月5日(木)・ 7月6日(金)	第25回上高地談話会(第8回涸沢談話会) 「北穂小屋のあれこれ」 小山義秀会員	会員	涸沢ヒュッテ
7月28日(土)	第38回現地研修 「伊吹山と航空宇宙博物館を訪れる」	会員	日帰りバス
8月2日(木)・ 8月3日(金)	こどもキャンプ-夏	こども	乗鞍 ST
8月25日(土)	第39回現地研修会 「四阿山登山」	会員	日帰りバス
9月8日(土)・ 9月9日(日)	第40回現地研修会「大人のキャンプ・徳本峠登山」	会員	上高地 ST
9月29日(土)	岳間のすすめ-30「先鋭的クライミング」 横山勝丘（ピオレドール賞受賞者）	会員他	信州大学理学部
12月1日(土)	信州フィールド科学賞授賞式・講演会・忘年会 憧憬の森講演会「ずくだせテレビ」長戸文秀（SBC）	会員	松本市駅前会館
2月23日(土)・ 2月24日(日)	第41回現地研修会「乗鞍観光を考える」	会員	乗鞍 ST

2018年度 友の会 収支予算(案)

収入の部

(円)

科 目	本年度予算額	前年度決算額	増 減	備 考
繰越金	537,960	712,900	△ 174,940	前年度繰越金
会費	433,000	445,000	△ 12,000	正 会 員:101名 303,000 家族会員:3家族 15,000 学生会員:10名 5,000 賛助会員:11口 110,000
事業参加費	3,505,000	1,744,000	1,761,000	
計	4,475,960	2,901,900	1,574,060	

支出の部

管理費	130,000	85,016	44,984	メール便等 80,000 消耗品費 50,000
事業費	3,755,000	2,243,821	1,511,179	
会議費	40,000	38,103	1,897	総会 10,000 講演会 10,000 キッズキャンプ 20,000
雑費	550,960	0	550,960	
計	4,475,960	2,366,940	2,109,020	

信州大学山岳友の会会報 第29号
 発行日：2018年5月8日
 発 行：信州大学山岳友の会
 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
 信州大学山岳友の会事務局
 TEL：0263-37-3332
 FAX：0263-37-2438
 E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp